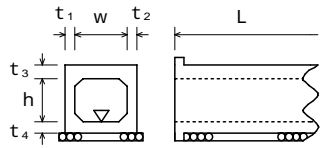
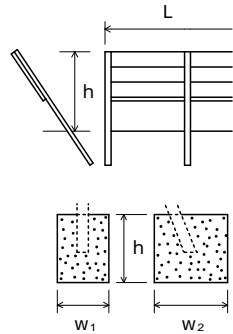


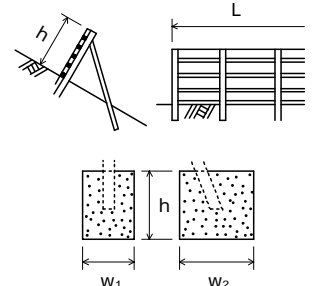
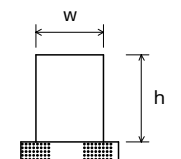
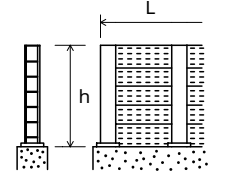
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	3 工 場 製 作 工	2	1	遮音壁支柱製作工	部 材	部材長 l (m) $\pm 3 \dots l \leq 10$ $\pm 4 \dots l > 10$	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	7 カ ル バ ー ト 工	6		場所打函渠工	基 準 高	± 30	
						厚 さ $t_1 \sim t_4$	- 20	
						幅 (内法) w	- 30	
						高 さ h	± 30	
						延 長 L		
					$L < 20m$	- 50		
					$L \geq 20m$	- 100		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	4		落石防止網工	幅 w	- 200	
						延 長 L	- 200	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	6		防雪柵工	高 さ h	± 30	
						延 長 L	- 200	
						基 礎	幅 w_1, w_2	- 30
							高 さ h	- 30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所で測定。		
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	7		雪崩予防柵工	高 さ h	±30	
						延 長 L	- 200	
						基 礎	幅 w_1, w_2	- 30
							高 さ h	- 30
						ア ン カ ー 長 ℓ	打 込 み ℓ	- 10%
							埋 込 み ℓ	- 5%
6 道 路 編	1 道 路 改 良	10 遮 音 壁 工	4		遮音壁基礎工	幅 w	- 30	
						高 さ h	- 30	
						延 長 L	- 200	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	10 遮 音 壁 工	5		遮音壁本体工	支 柱	間 隔 w	±15
							ず れ a	10
							倒 れ d	$h \times 0.5\%$
						高 さ h	+ 30, - 20	
						延 長 L	- 200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎 全数		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 5 スパンにつき 1 箇所 1 施工箇所毎		

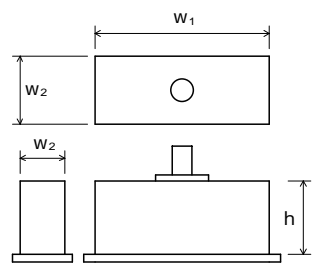
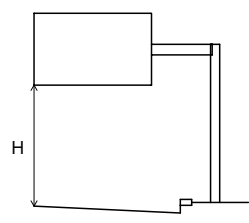
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高	± 50		
						厚 さ	t < 15cm	- 30	- 10
							t ≥ 15cm	- 45	- 15
						幅	- 100		
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚 さ	- 9	- 3	
						幅	- 25		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は片側延長 40m毎に 1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長 200m毎に 1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 80m毎に 1箇所測定。 両端部 2点で測定する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2000 m²以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t未滿あるいは施工面積が 2000 m²未滿。 厚さは、個々の測定値が 10個に 9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10個未滿の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、片側延長 80m毎に 1箇所の割で測定。厚さは、片側延長 200m毎に 1箇所コアを採取して測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	2 舗 装	4 排 水 構 造 物 工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高	±30
						延 長 L	-200
6 道 路 編	2 舗 装	6 踏 掛 版 工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	±20
						各 部 の 厚 さ	±20
						各 部 の 長 さ	±30
					(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	±20
						厚 さ	
						(アンカーボルト)	中 心 の ず れ
ア ン カ ー 長	±20						
6 道 路 編	2 舗 装	8 標 識 工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w_1, w_2	-30
						高 さ h	-30
6 道 路 編	2 舗 装	8 標 識 工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 箇所 / 1 施工箇所		
1 箇所 / 1 踏掛版		
1 箇所 / 1 踏掛版		
1 箇所 / 1 踏掛版		
全数		
全数		
全数		
基礎一基毎		
1 箇所 / 1 基		

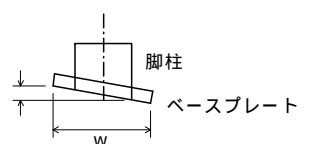
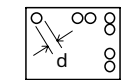
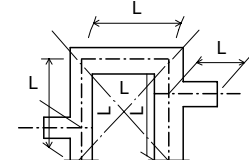
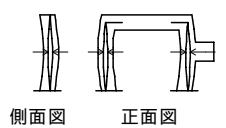
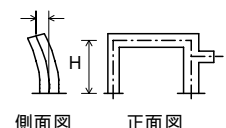
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	2 舗 装	11 道 路 付 属 施 設 工	5	1	ケーブル配管工	基 準 高	± 30
						延 長 L	- 200
6 道 路 編	2 舗 装	11 道 路 付 属 施 設 工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高	± 30
						厚 さ $t_1 \sim t_5$	- 20
						幅 w_1, w_2	- 30
						高 さ h_1, h_2	- 30
6 道 路 編	2 舗 装	11 道 路 付 属 施 設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	- 30
						高 さ h	- 30

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部間毎に1箇所		
接続部間毎で全数		
1箇所毎 印は、現場打ちの場合		
1箇所 / 1施工箇所		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	3		鋼製橋脚製作工	部	脚柱とベースプレートの鉛直度 (mm)	w/500	
						材	ベースプレート	孔の位置	± 2
							孔の径	0 ~ 5	
						仮 組 立 時	柱の中心間隔、対角長 L (m)	± 5 ... L 10m ± 10 ... 10 < L 20m ± (10 + (L - 20)/10) ... 20m < L	
							はりのカンバー及び柱の曲がり (mm)	L / 1,000	
							柱の鉛直度 (mm)	10 ... H 10 H / 1,000 ... H > 10	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各脚柱、ベースプレートを測定。		
全数を測定。		
全数を測定。		
両端部及び片持ばり部を測定。		
各主構の各格点を測定。		
各柱及び片持ばり部を測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
6	3	4	8		橋台躯体工	基 準 高	±20		
						厚 さ t	- 20		
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	- 10		
						天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	- 10		
						敷 幅 w_3 (橋軸方向)	- 50		
						高 さ h_1	- 50		
						胸壁の高さ h_2	- 30		
						天 端 長 l_1	- 50		
						敷 長 l_2	- 50		
						胸壁間距離 l	±30		
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50		
						アンカー ボルトの 箱抜き 規格値	鋼製 支承	計画高	- 30 ~ + 10
								平面位置	±20
								アンカーボルト孔の鉛直度	1/50 以下
							ゴム 支承	計画高	- 20 ~ + 10
								平面位置	±20
								アンカーボルト孔の鉛直度	1/50 以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
6	3	5	9	1	橋脚躯体工 (張出式)	基 準 高	±20		
						厚 さ t	- 20		
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	- 20		
						敷 幅 w_2 (橋軸方向)	- 50		
						高 さ h	- 50		
						天 端 長 l_1	- 50		
						敷 長 l_2	- 50		
						橋脚中心間距離 l	± 30		
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50		
						アン カー ボルト の箱 抜き 規格 値	鋼 製 支 承	計画高	- 30 ~ + 10
								平面位置	± 20
								アンカーボルト孔 の鉛直度	1 / 50 以下
						ゴ ム 支 承	計画高	- 20 ~ + 10	
							平面位置	± 20	
							アンカーボルト孔 の鉛直度	1 / 50 以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

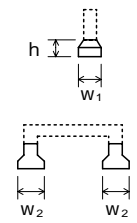
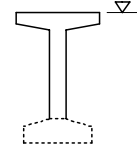
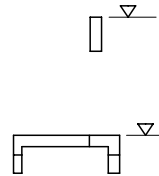
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	9	4	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高	± 20
						厚 さ t	- 20
						天 端 幅 w_1	- 20
						敷 幅 w_2	- 20
						高 さ h	- 50
						長 さ l	- 20
						橋脚中心間距離 l	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高	± 20
						幅 w (橋軸方向)	- 50
						高 さ h	- 50
						長 さ l	- 50

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

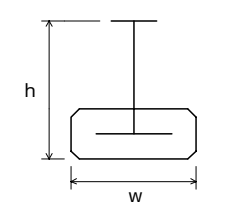
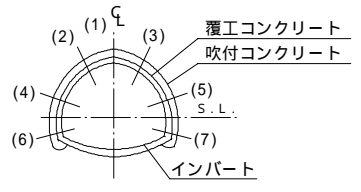
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高	±20
						幅 w_1, w_2	- 50
						高 さ h	- 50
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高	±20
						橋脚中心間距離 l	±30
						支間長及び 中心線の変位	±50
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高	±20
						橋脚中心間距離 l	±30
						支間長及び 中心線の変位	±50
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 s_1, s_2 (mm)	5 ± 5

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 は耐候性鋼材(裸使用)の場合		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	9		橋梁用高欄製作工	部 材	部材長 l (m) $\pm 3 \dots \dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots$ $l > 10$
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	5 プ レ ビ ー ム 桁 橋 工	2		プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	± 5
						高 さ h	+10 - 5
						桁 長 l スパン長	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots$ $\pm (l - 5)$ かつ - 30mm 以内
						横方向最大タワミ	$0.8l$
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	4 支 保 工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚 以上。ただし、 良好な岩盤で 施工端部、突出 部等の特殊な 箇所は設計吹 付け厚の1/ 3以上を確保 するものとし る。
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	4 支 保 工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	
						角 度	
						削 孔 深 さ	
						孔 径	
						突 出 量	プレート下面 から10cm以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレス シング後測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3箇所とする。 l : スパン長		
施工延長 40m毎に図に示す。 (1) ~ (7) 及び断面変化点の検測孔を測 定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技 術基準(構造編)にいう地盤等級 A 又 は B に該当する地盤とする。		
施工延長 40m毎に断面全本数検測。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高(拱頂)	±50
						幅 w(全幅)	-50
						高さh(内法)	-50
						厚 さ t ₁ , t ₂	設計値以上
						延 長 L	
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50
						厚 さ t	-30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工 40m につき 1 箇所。</p> <p>(2) 厚さ</p> <p>(イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。</p> <p>(ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。</p> <p>(ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は 40m に 1 箇所、(2)～(3)は 100m に 1 箇所の割合で行う。</p> <p>なお、トンネル延長が 100m 以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。</p> <p>ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の 3 分の 1 以下のもの。 ・なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。 		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	6 イ ン バ ー ト 工	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	- 50	
						厚 さ t_1, t_2	設計値以上	
						延 長 L		
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	8 坑 門 工	4		坑門本体工	基 準 高	± 50	
						幅 w_1, w_2	- 30	
						高 さ h	$h < 3\text{ m}$	- 50
							$h \geq 3\text{ m}$	- 100
						延 長 L	- 200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 幅は、施工 40mにつき 1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の (1)は 40mに 1箇所、(2)～(3)は 100mに 1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が 100m以下のものについては、1トンネル当たり 2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。</p>		
<p>図面の主要寸法表示箇所測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	8 坑 門 工	5		明り巻工	基準高(拱頂)	±50
						幅 w(全幅)	-50
						高さh(内法)	-50
						厚 さ t	-20
						延 長 L	
6 道 路 編	7 ト ン ネ ル (矢 板)	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高(拱頂)	±50
						幅 w(全幅)	-70
						高さh(内法)	-70
						厚 さ t	-50
						延 長 L	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点～において、厚さの測定を行う。</p>	<p>(アーチ部)</p> <p>(側壁部)</p> <p>(インバート部)</p>	
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の間と終点を図に示す各点～で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点～の巻厚測定を行う。 ただし、上半断面先進工法の場合～については上半のセントルの間隔程度でよい。 (ハ) せん孔による巻厚の測定は図の は40mに1箇所、～は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上のせん孔による測定を行う。 ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督職員の指示により間隔を拡げることができる。</p>	<p>(アーチ部)</p> <p>(側壁部)</p> <p>(インバート部)</p>	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	7 ト ン ネ ル (矢 板)	6 イ ン バ ー ト 工	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	- 50
						厚 さ t_1, t_2	設計値以上
						延 長 L	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工 40m につき 1 箇所。</p> <p>(2) 厚さ</p> <p>(イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の間と終点を図に示す各点(1)～(10)で測定。</p> <p>(ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点(1)～(10)の巻厚測定を行う。</p> <p>ただし、上部半断面先進工法の場合(4)～(7)については上半のセントルの間隔程度でよい。</p> <p>(ハ) せん孔による巻厚の測定は図の(1)は 40m に 1 箇所、(2)～(3)は 100m に 1 箇所の割合で行う。</p> <p>なお、トンネル延長が 100m 以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上のせん孔による測定を行う。</p> <p>ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督職員の指示により間隔を拡げることができる。</p>		

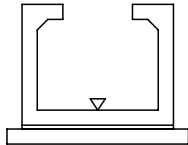
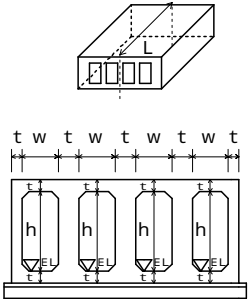
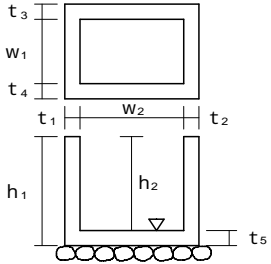
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	10 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	2		管路工（管路部）	埋 設 深	0 ~ +50
						延 長 L	- 200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部（地上機器部）間毎に1箇所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】	<p>接続部 （地上機器部）</p> <p>接続部 （地上機器部）</p>	

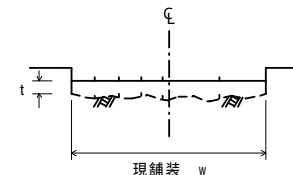
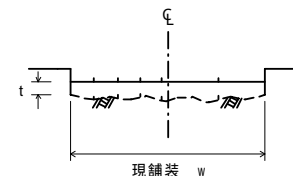
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	10 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	基 準 高	± 30
6 道 路 編	10 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	4		現場打ちボックス工 (特殊部)	基 準 高	± 30
						厚 さ t	- 20
						内 空 幅 w	- 30
						内 空 高 h	± 30
						ブロック長 L	- 50
6 道 路 編	10 電 線 共 同 溝	6 付 帯 設 備 工	2		ハンドホール工	基 準 高	± 30
						厚 さ $t_1 \sim t_5$	- 20
						幅 w_1, w_2	- 30
						高 さ h_1, h_2	- 30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部（地上機器部）間毎に1箇所。		
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
1箇所毎 は現場打部分のある場合		

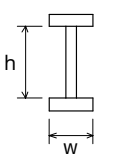
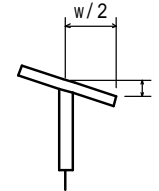
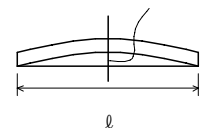
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (\bar{X}_{10})	
6	道路編	11	3	5	舗装工	切削オーバーレイ工	厚さ t	- 9	
							幅 w	- 25	
							延長 L	- 100	
							平坦性	3mプロファイル ()2.4mm以下 直読式 (足付き) ()1.75mm以下	
6	道路編	11	3	7	舗装工	路上再生工	路盤工	厚さ t	- 30
								幅 w	- 50
								延長 L	- 100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。</p> <p>幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。</p> <p>断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。</p>	 <p>現舗装 w</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は延長80m毎に1箇所の割で測定。厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。</p>	 <p>現舗装 w</p>	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値											
6	道	路	編	3	道	橋	梁	修	繕	工	4	耐	震	補	強	工	桁補強材製作工	$\pm 2 \dots\dots$ $w \ 0.5$ $\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < w \ 1.0$ $\pm 4 \dots\dots$ $w \ (m)$ $1.0 < w \ 2.0$ $1.0 < w \ 2.0$ $\pm (3 + w /$ $2) \dots 2.0 < w$ $b \ (m)$
																	フランジの直角度 (mm)	$w / 200$
																	圧縮材の曲がり (mm)	$l / 1000$
6	道	路	編	20	橋	梁	修	繕	工	10	耐	震	補	強	工	削孔工	削孔延長	設計値以上

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
鋼げた等	トラス・アーチ等		
主げた・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型鋼げた	
床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		
主げた	各支点及び各支間中央付近を測定。		
	主要部材全数を測定。 l : 部材長(mm)		
全数 (曲がらない定規で測定)			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値
6 道 路 編	12 道 路 修 繕	20 橋 梁 修 繕 工	10 耐 震 補 強 工		アンカー定着工	アンカーボルト全長	設計値以上 (許容値：同種 の材料による 5回の測定 の上下限值以内)

測 定 基 準	測 定 箇 所	単位：mm 摘 要
全数 (超音波探傷器により測定)		超音波パルス 反射法による アンカーボルト 長さ測定要領(案)による。